

1. 阪神電鉄の状況

阪神電鉄の被災状況は神戸市内の高架区間に集中しており、長期にわたり不通となりました。



上2枚：石屋川駅東側の留置側線で被災した8000系。
コンクリートの壁が崩れ、盛土が噴出して路盤が傾いています。

左下：線路の北側では街が一角消失しました。





前ページの写真の西側（石屋川駅ホームの北側）で撮影。
上2枚：留置線路盤が崩れ、8000系の神戸寄り2両が転落、先頭車は架線柱を倒すような形で止まった。

なお先頭部分の車体は、復旧作業のために切り取られていた。

左下：御影側から撮影。斜めに傾いた2両目の先に、完全に横倒しになった先頭車が見える。

まだ新しい8000系2次車の切断された車体が焼け跡に頭の如く置かれていた。



右上：石屋川駅西側の線路の様子
写真奥が神戸側、線路の左奥に高架の石屋川車庫へと続く。



左下：切断された車体中央部分がトラックに載せられて運ばれてゆく。



高架駅である新在家駅の被害状況

左上：駅東側。道路上に橋が落下し（既に交通障害になるため撤去されていた）、線路部分の路盤が1階の駅を押しつぶした。



左下：駅西側。こちらは付近一帯が焼け野原になっていた。後ろに見えるのがホーム、駅南側のゲームセンターなどの入ったビル。

民家はほぼ全焼・壊滅に近い被害を受けている。